

黒毛和種市場出荷子牛のBCSに及ぼす要因および価格との関係について

内村利美

(第38回西日本畜産学会講演要旨) 1987. 10. 16. 鹿児島大学農学部

目的: 栄養状態の判定技術として Body condition score (BCS) はオーストラリアにおいて羊の太りの程度を評価するために始められ、その後イギリスに紹介され牛への応用がなされ、技術者や繁殖農家で広く利用されるようになった技術である。一方、わが国の子牛市場では、過肥が問題として指摘されているが、客観的な評価方法がないため、技術者や生産農家は出荷子牛の栄養状態の適切な判定に苦慮している。このため、本研究ではBCSによって黒毛和種市場出荷子牛の栄養状態を判定し実体を把握するとともに、出荷季節、種雄牛および母牛の登録の種類による子牛のBCSの違いを明らかにしようとした。さらに価格、生体単価および出荷日齢とBCSとの関係や「後びきの程度」(HR)との関係についても検討した。

方法: 昭和59年11月と昭和60年6月に鹿児島県薩摩中央家畜市場に出荷された黒毛和種子牛のそれぞれ1050頭および1040頭について体重、体高、BCS、価格およびHRを測定し、出荷季節、種雄牛および母牛の登録の種類を要因としてBCSの違いを明らかにした。また価格、生体単価、出荷日齢およびHRとBCSとの関係について実態を明らかにしようとした。

結果: 発育値(体重、体高および日齢体重)および栄養状態(栄養度指数およびBCS)は去勢ならびに雌とも6月に出荷される子牛は11月に出荷される子牛より有意に高い値を示し、子牛に対する夏季暑熱の影響の大きさが伺えた。しかし、発育値や栄養状態とは逆に、価格は去勢ならびに雌とも11月に出荷される子牛が有意に高く、夏季の子牛への飼料給与技術の向上が重要であると考えられた。子牛のBCSは種雄牛でも有意差が認められ忠福は去勢および雌とも有意に高い値を示した。また、去勢では母牛の登録の種類によってもBCSは異なり高等、育種登録の子牛が高く、本原や二代登録の子牛は低い値を示した。去勢子牛の価格はBCSが5⁻のとき最大値を示したが、雌子牛ではBCSが増加するほど価格は高くなる傾向を示した。生体単価では去勢子牛で3⁺のとき最大値を示した。雌子牛の出荷日齢は4⁺のとき最小値を示した。雌子牛のHRはBCSの増加とともに減少した。